

平成 28 年度(29 年 3 月期)決算概要

1. 損益の状況
2. 営業活動の状況
3. 健全性指標
4. 平成 29 年度の業績予想



1. 損益の状況

○経常収益

経常収益は、前期比 1.54%増加の 116 億 14 百万円と、3 期ぶりに増収となりました。貸出金利息の減収を有価証券利息配当金で補完し、株式売却益を計上したことにより、増収となりました。

○経常費用

一方で、経常費用は、前期比 3.77%増加の 96 億 85 百万円となりました。預金利息や経費削減に取り組んだものの、英国のEU離脱等による市場環境の変化に対応するため、ヘッジポジションの一部解消による債券売却損の発生や、将来の貸倒に備えた引当金を厚く積み増したこともあり、増加となりました。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は前期比 8.35%減少の 19 億 28 百万円、当期純利益は、前期比 10.17%減少の 18 億 46 百万円となりました。事業計画に対しては、経常利益(計画比+1 億 30 百万円)、当期純利益(計画比+86 百万円)ともに達成しました。

○実質業務純益

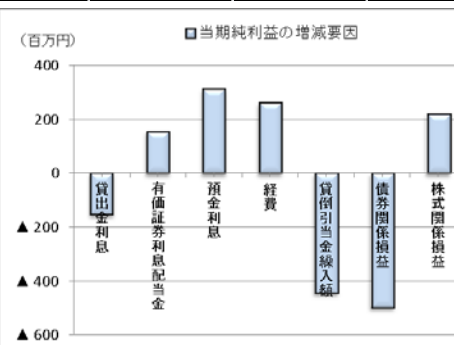
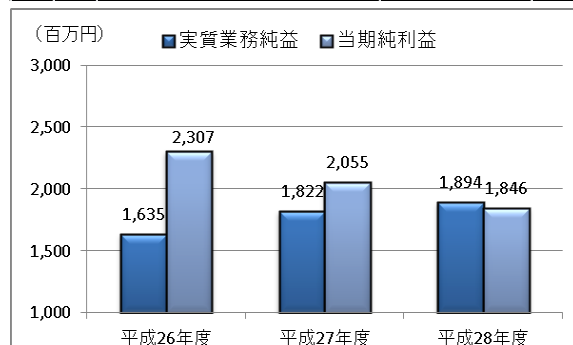
本業のもうけを示す実質業務純益は、資金利益が増益となったことが寄与し、18 億 94 百万円と 3 期連続で増加(前期比+3.96%)となりました。

○資金利益

資金利益は、貸出金利息の減収を有価証券運用の分散投資により、収益源の多様化に取り組んだこと、預金利息が減少したことにより、92 億円 41 百万円と増加(前期比+3.42%)となりました。

(単位:百万円、%)

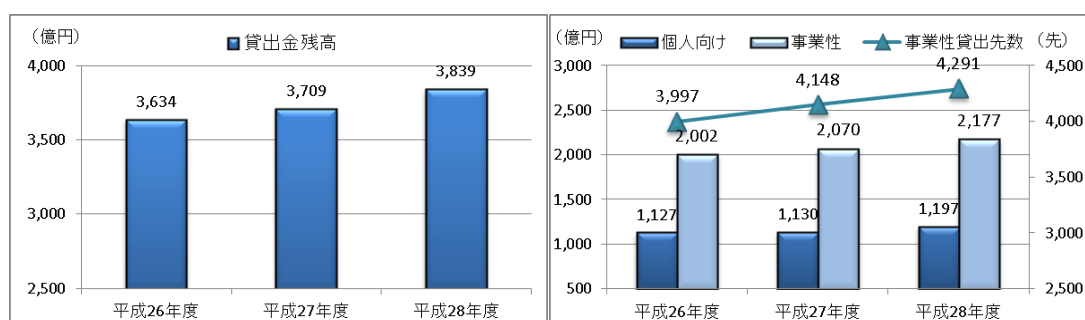
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前期比	増減率
実質業務純益	1,635	1,822	1,894	72	3.96
資金利益	8,999	8,935	9,241	306	3.42
貸出金利息	7,234	7,095	6,943	▲ 152	▲ 2.14
有価証券利息配当金	2,174	2,261	2,416	155	6.85
預金利息	756	727	416	▲ 310	▲ 42.67
貸倒引当金繰入額(▲は戻入益)	▲ 1,574	▲ 88	355	443	-
経常収益	13,174	11,437	11,614	176	1.54
経常利益	3,488	2,104	1,928	▲ 175	▲ 8.35
当期純利益	2,307	2,055	1,846	▲ 209	▲ 10.17



2. 営業活動の状況

○貸出金

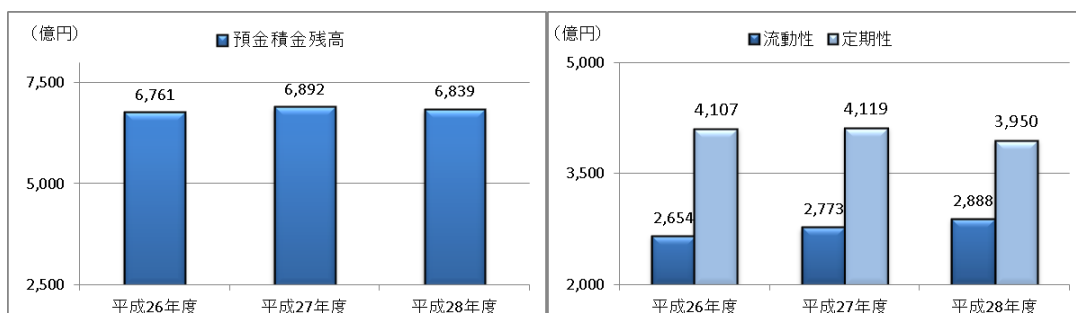
貸出金は、中小企業向け融資や住宅ローンを中心に個人向け融資が増加し、**期末残高は前期比 3.52%増加の 3,839 億円となり、4 期連続で増加**しました。事業性の貸出先数は、ビジネス情報のご提供や補助金の申請支援、呉創業支援ネットワーク等を通じて創業支援へ取組むなど、経営上の課題解決に繋がる提案活動に取組んだ結果、**年間 143 先増加**しました。住宅ローンについては、住宅の新築および借換ニーズ等に対応し、口座数は**年間 89 口座増加**しました。



※ 事業性貸出には、地公体、金融機関向け貸出を含んでいません。

○預金積金

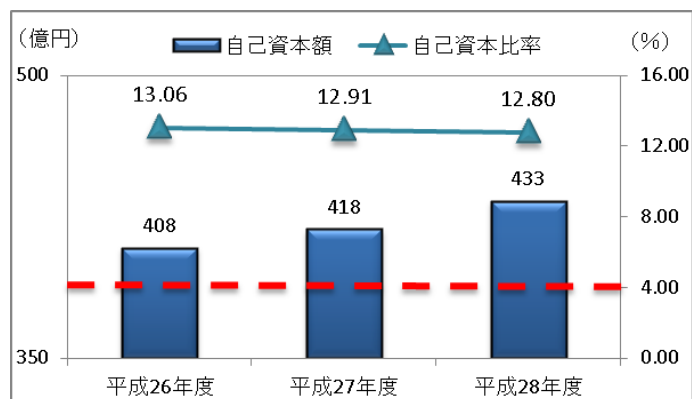
預金積金は、給与・年金振込や口座振替、インターネットバンキング契約の推進など、積極的な営業活動に取組んでまいりましたが、マイナス金利政策の影響を考慮し、高金利の預金商品の調整を行い、**期末残高は前期比 0.77%減少の 6,839 億円**となりました。



3. 健全性指標

○自己資本比率

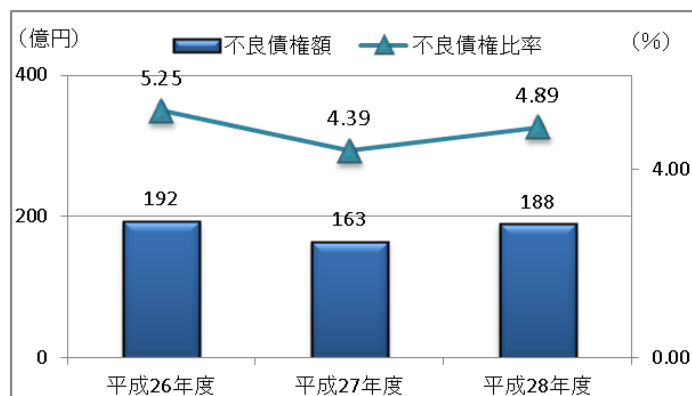
自己資本額は前期比 3.69%増加した一方、中小企業向け融資残高の増加等により、リスク・アセット等が 4.58%増加したため、自己資本比率は前期比▲0.11 ポイントの 12.80%とやや低下しましたが、国内業務のみを行う金融機関に必要とされる基準 4%（規制値）を大幅に上回っており、健全性に問題はありません。



○不良債権比率

事業再生先への支援に取り組んできた結果、不良債権額は前期比 24 億円増加し、不良債権比率は前期比+0.50 ポイントの 4.89%となりました。

なお、不良債権には、担保や貸倒引当金等により適切に保全が図られており、備えは万全です。



4. 平成 29 年度の業績予想

○経常収益

経常収益は、前期比 6.17%減少の 108 億 96 百万円と予想します。貸出金利息をはじめ、有価証券利息配当金等の減収、株式売却益の減少を見込んでいます。

○経常費用

経常費用については、経費削減に努めるとともに、前期発生したヘッジポジションの変更コストも縮小見込みであることから、前期比 7.50%減少の 89 億 58 百万円と予想します。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は、前期比 0.51%増加の 19 億 38 百万円、当期純利益は、前期比 2.92%増加の 19 億円と、4 期ぶりの増益を見込んでいます。

○実質業務純益

また、本業のもうけを示す実質業務純益は、22 億 4 百万円と 4 期連続の増加（前期比+16.33%）を見込んでいます。マイナス金利政策や競合激化など、厳しい経営環境の中、営業基盤の強化に取り組むと同時に、経費削減を図り、経営基盤の強化に取り組めます。

○平成 29 年度経営方針

平成 29 年度経営方針では、お客さまとの「対話」をこれまで以上に深め、「お客さまの価値創造への貢献」を目指した営業活動を展開し、地域金融機関としての役割を果たしていきたいと考えています。その成果として、預金積金残高は前期比 2.34%増加の 7,000 億円、貸出金残高は前期比 4.16%増加の 4,000 億円（5 期連続の増加）を計画しています。

（単位：百万円、%）

	平成28年度	平成29年度計画	前期比	増減率
実質業務純益	1,894	2,204	309	16.33
資金利益	9,241	8,936	▲ 305	▲ 3.30
貸出金利息	6,943	6,825	▲ 118	▲ 1.70
有価証券利息配当金	2,416	2,210	▲ 206	▲ 8.53
預金利息	416	371	▲ 45	▲ 10.98
貸倒引当金繰入額	355	338	▲ 16	▲ 4.65
経常収益	11,614	10,896	▲ 717	▲ 6.17
経常利益	1,928	1,938	9	0.51
当期純利益	1,846	1,900	53	2.92

以 上